

在家仏教講演会 開催ご案内

東京 時間：午前10時～11時30分
会場：中野サンプラザ7階研修室10（中野区中野4-1-1）
会場整理費：700円 お問合せ：03-6684-6692

- 1月12日(土) 「非俗」の実践 阿満利麿 先生 明治学院大学名誉教授
1月26日(土) 労働の場と個の確立 本多弘之 先生 親鸞仏教センター所長
2月9日(土) 企業活動と宗教—宗教的理念なき企業は消え去っていく 柴田文啓 先生 開眼寺住職・元横河アメリカ社長
2月23日(土) 生きること、はたらくこと—菩薩行として 末木文美士 先生 東京大学名誉教授
3月9日(土) 通俗道徳と浮世の思想 島蘭 進 先生 上智大学教授
3月23日(土) 罪としての労働と慈悲行としてのはたらく 保坂俊司 先生 中央大学教授
4月13日(土) 私のオウム事件 楠山泰道 先生 大明寺住職・日本脱カルト協会顧問
4月27日(土) 迷いからの脱出 山崎龍明 先生 武蔵野大学名誉教授
5月11日(土) 迷いからの脱出 福田亮成 先生 大正大学名誉教授

大阪 第3金曜日 午後3時～4時30分
会場：堂島アバンザ5階または14階（北区堂島1-6-20）
会場整理費：500円 お問合せ：06-6346-7000

- 3月15日(金) 釈尊から親鸞聖人へ 丘山 新 先生 浄土真宗本願寺派総合研究所所長
5月17日(金) 演題未定 田代俊孝 先生 仁愛大学学長

いのち尊し

第21号
いのち尊し
2019年1月1日
公益社団法人 在家仏教協会
〒101-0062
東京都千代田区 神田駿河台3-3 五明館ビル202号
TEL 03-6684-6692
FAX 03-6684-6709

「仏教と経営」

常句芳樹

(協和発酵元社員)

日本人の意識や文化に根差した独特の会社経営が注目された時期があった。近年は話題にされなくなっていたが、日産自動車のカルロス・ゴーン氏逮捕で、この「日本的経営」を改めて思い出した。

その一つに経営者の問題があった。組織の力を頼るあまりに責任意識が弱く、経営危機への対応が遅れがちというのだ。〈共同責任は無責任〉などと言われもした。長所と短所は表と裏。この問題を考えたとき、思い出すことがある。

ゴーン氏は「経営トップと社員の報酬格差があまり大きいと、社員が仕事への意欲を下げてしまいかねない」と考え、自分の報酬額を過少に報告した」と釈明したそうだ。社員が経営トップをどう見るかを気にしつつ、会社全体の一体感を壊さないため、というのだ。それが本当だとすると、先の日本的経営への配慮こそが氏をつまづかせたといえる。

それは、在家仏教協会の創設に尽力された加藤辨三郎さん(協和発酵社—現協和発酵キリン社—初代社長)の講演の一節だ。「仏教と実業」と題して話をされている。仏教教理の柱である「諸法無我」について説明した後で、「我」の理解についてこう語る。

チームワークの良さを強みにしている日本の経営は、業績低迷が続いた時期に、かなり批判された。

《仏教經典には宝羅網というこ とばがしばしば出てきます。わた くしなるものは大きな網の結び目のひとつなのだと思いますので、いかに「我」は蒸発してしまう

責任を感じてこそはじめて「我」があるのではないでしょうか》
業績が良い時は「おかげさま」の精神で感謝する、悪い時は「自己のあり方」から自分の責任、というのである。業績寄与に比例し

仏教は「小欲知足」という言葉で欲望の自制を教える。世の経営者が本当にチームワークとリーダーシップの両立を目指すならば、仏教の学びをお勧めしたい。

《業績の良いときは、すべて他のおかげというならば、業績の悪いときは、すべて他の責任といつてもよいではないかという理屈であります。いかにもすじの通った論理に聞こえますね。ところが、これでは、それこそ「我」が蒸発してしまうのです。自己のうぬぼれだけが残って、肝心の真の自己が行方不明になってしまいます。責任を感じてこそはじめて「我」があるのではないのでしょうか》

報酬についてゴーン氏は「世界の経営者と遜色のない水準を受け取るべきだ」と考えていたようだ。日本の経営の尊重は形だけで、その精神を實踐する気はなかつたろう。自分が置かれた網の目よりも、自分の能力を中心に人間を理解しているわけだ。日本社会とは違つた宗教や教育によつて養われた人間観が背景にあると感じる。

報酬についてゴーン氏は「世界の経営者と遜色のない水準を受け取るべきだ」と考えていたようだ。日本の経営の尊重は形だけで、その精神を實踐する気はなかつたろう。自分が置かれた網の目よりも、自分の能力を中心に人間を理解しているわけだ。日本社会とは違つた宗教や教育によつて養われた人間観が背景にあると感じる。

た報酬制度からは出て来ない発想だ。結果を見る前に、リーダーとしての自分の存在はどこからくるのか、そこをおさえることが経営の要と見ている。
* 報酬についてゴーン氏は「世界の経営者と遜色のない水準を受け取るべきだ」と考えていたようだ。日本の経営の尊重は形だけで、その精神を實踐する気はなかつたろう。自分が置かれた網の目よりも、自分の能力を中心に人間を理解しているわけだ。日本社会とは違つた宗教や教育によつて養われた人間観が背景にあると感じる。

この一冊

奈良康明著『説戒』（大法輪閣）

菅原伸郎
（元新聞記者）

元駒澤大学学長であり、本協会の理事でもあった故・奈良康明先生の講演録だ。副題に「永平寺西堂老師が語る仏教徒の心得」とあるように、二〇一二年の春、曹洞宗の大本山で行われた一週間にわたる授戒会での「説戒」を一冊にまとめた。「戒」についての、やさしい「説」き明かしである。

まず「戒は宗教的躰（しつけ）です」とおっしゃる。こうすれば正しい生き方ができます、という

在家仏教協会 四つの信条

- 一、 釈尊の説法虚言ならずと信じていること。
- 二、 釈尊の説法の内容そのものは永遠の真理であるが、それを大衆に知らせる手段は、時と処と人に応じつねに新鮮でなければならないと信じていること。
- 三、 呪術らしきものは一切排除すること。
- 四、 在家生活のまま仏教に生きようとしていること。

指針だ。なんだ、そんなことは分かっている、と言う向きもあるが、それだけでは身につかない。日々実践するには、相応の訓練が必要だ。たとえ僧院で先達から指導を受けなければならない。

そう前置きして、授戒会の日程に沿って順々に説明していく。どちらかといえば「易行」に親しんできた私にとって、禪宗などの「難行」は近寄りがたい。たとえ「難行」は近寄りがある「我昔所造諸悪業、皆由無始貪瞋癡、從身語意之所生、一切我今皆懺悔」の懺悔文も、知ってはいてもあまり唱えたことがない。不殺生、不偷盜、不貪淫、不妄語……も、分かっているが、どうも縁遠い。

しかし、生前の釈尊ご自身はこうした戒律を学び、実践し、後世に遺されたのだ。仏教を学ぶ者と

して軽んじてはいけないうらう。生前から「インド屋」を自称されていた奈良先生は、かの地に留学していたころに片田舎で出逢った修行僧の様子をこう書く。

旧街道の茶店に座っていると向こうから日焼けした半裸の修行僧が歩いてきた。まっすぐ前を見つめ、厳しくも晴れやかな表情で目の前を歩いていく。おそらくは釈尊もこのように諸国を遍歴されたのだろう……。

こんな思い出も紹介される。やはりインド滞在中に、アメリカ人の家庭に招かれたことがあった。バラモン階級の友人も誘って出席すると、食卓にはビーフが出された。その友人にとっては食べてはいけない決まりのはずだが、彼はあえて一口食べて見せた。若き奈良先生はその態度に感心して、そこには料理を作った女性への「慈悲」があった、と記している。

かの永平寺での講習会で厳しくも難しい戒律を勧めつつ、あえて「破戒」の話も紹介する。そして衆生に慈悲の大切さも語ってくださる姿は、まさにわれらが奈良老師ではないか。やさしいお人柄を改めて思い出させていただいた。

在家仏教通信

「大法輪二月号」へ講演録が掲載されました

「在家佛教」のバックナンバーをお譲りします

「在家佛教」2012年1月号から2017年5月号までのバックナンバーをご希望の方は事務局までお申し込み下さい。

今月は、2016年の講演録を掲載しました。在庫切れの際はご容赦下さい。

死者は生きている

―日本仏教の特徴

峯岸正典（曹洞宗長楽寺住職）

お葬式で死者に戒を授けるのは死後の存在を想定しているからです。生と死の連続性の中で、今を一生懸命生きるのが私たちの使命です。

原稿をお待ちしています

- ◇随想「仏教と私」（八百字以内）
- 人生を振り返って仏教と出逢ったときの感動をお書きください。
- ◇読者からの手紙（八百字以内）
- 講演会（講演録）の感想などをお書きください。
- ◇コラム「この一冊」（八百字以内）

感銘を受けた書籍を紹介してください。新刊だけでなく、思い出の本も歓迎します。著者名、出版社名、発行年を忘れずに。

*

原稿用紙またはメールに添付して、左記宛てにお送りください。住所、氏名、電話番号、よろしければ職業と年齢もお書きください。読みやすくするために、あるいは編集上の都合で、趣旨を変えない範囲で削ったり直したりする場合があります。採用分には薄謝をお送りします。原稿の送り先は、〒101-0062 東京都千代田区神田駿河台3-3-202 在家仏教協会「いのち尊し」係。メールはkamimura@zaikbukkyo.comまで。

会員募集

協会では会員を募集しております。私どもは、皆様の会費によって活動しております。協会の発展のためにご協力を宜しくお願い致します。

- 年会費
- 賛助会員 一万七千円（一口）
- 正会員 八千円

会員へのサービス

★月刊誌「大法輪」を毎月お届け
在家仏教講演会の筆録が掲載中

★機関紙「いのち尊し」を毎月お届け

★講演会の動画を視聴
三十四本を配信中

★協会六十周年記念誌
『講演集』悲喜をよむ日々
『対談集』掌を口わすて生きるの
を贈呈

ご寄付のお願い

公益社団法人在家仏教協会は、在家の方々に対する仏教の教えを生活に生かしてもらうための知恵、知識等の普及活動を目的としており、その運営はご賛同いただける皆様からのご寄付によって成り立っております。活動を推進し、使命を十分に果たすためには、財源を確保することが必要不可欠です。協会への寄付は以下の優遇税制が認められております。是非ご支援をお願い申し上げます。

★所得税
所得金額から「寄付金（所得金額の40%が限度）2,000円」を控除することができます。

★法人税
法人が支出する寄付金は、その法人の資本金等の額、所得の金額に応じた一定の限度額までが損金に算入されます。このとき、公益法人に対する寄付については、一般寄付金の損金算入限度額とは別に、別枠の損金算入限度額が設けられております。

★相続税
個人が相続財産を公益法人に贈与した場合、非課税となります。

1月号	養輪顕量 菅原伸郎	上座仏教の瞑想から大乘仏教の瞑想へ 鈴木大拙を読み直すー妙好人
2月号	高橋哲秋 石飛道子	生死の中の仏 より良く生きるーサーレツヤカ経を読む
3月号	太田心海 吹田隆道	信心の社会性 ブッダの覚りがもたらす宗教性
4月号	波佐間正己 乗元恵三	仏道の完成は死後でなく、生きている今 仏教に帰るー柳宗悦氏の場合
5月号	奈倉道隆 大江憲成	仏教思想に照らして医療と介護を考える 酌流尋源
6月号	奈良康明 重松宗育	悟りと浄土ー禅～「仏への道」と「仏の道」 禅僧が読むアメリカ文学
7月号	本多弘之 伊藤 益	悟りと浄土ー「大乘の涅槃」と「大悲の本願」 萬葉集と仏教
8月号	阿満利磨 田畑正久	悟りと浄土ー念仏と「真心」 仏教の教える「救い」とは
9月号	藤本浄彦 赤池憲昭	悟りと浄土ー智慧と慈悲：法然 「死と生」をめぐる課題
10月号	木村清隆 森江俊孝	悟りと浄土ー華嚴思想とさとりの世界 「菩薩の行願」に生きる
11月号	華園聰磨 今西順吉	「いのち」さまざまー生と死の意味をめぐる 漱石の『こころ』について
12月号	佐藤 研 立川武蔵	悟りと浄土ーイエスとその弟子たちとの場合 釈尊の生涯について

